

マドリッド日本人学校における教育活動の実際

前マドリッド日本人学校教諭

北海道恵庭市立恵庭中学校教諭 中村 大介

キーワード：在外教育施設、学校運営、算数・数学教育、国際理解、キャリア教育

1. はじめに

2020年のスタートは「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」のニュースで始まり、今もなお、日本やスペインに限らず世界中でその猛威を振るっている。世界中の仲間と手を取り合ってこの困難とたたかい、収束に向かわせなければならない。そのような中、私の派遣期間中の職務や帰国に関わって、お力添えをいただいた皆様に感謝を申し上げたい。

2. マドリッド日本人学校について

(1) 運動場売却による運営資金の確保

近年、マドリッド日本人学校は生徒児童数の減少のため、赤字経営が続いていたが、昨年度黒字に転換することができた。学校運営委員の皆様のご知恵と努力の結晶といえる。そのような状況の中、3～4年前から校地の売却・学校移転計画を進めてきた。当初は広い校地全体を売却し、売却益で本校の生徒数の規模に適した物件に学校を移転する計画を進めてきた。その後、検討を重ねた結果、校地を校舎敷地と運動場の2つに分割登記し、運動場側を売却し、その利益を学校運営に補填し、児童生徒の安心と安全を確保できる校舎へ改修しようと動いてきた。現在、分割登記が終了し売却に向けての準備が進められている。不動産会社から数か月後には運動場側の土地が売却できると報告されている。また、校舎改修業者との打ち合わせも進み、現状の歴史を感じる外観を保ちながらも、学校生活を送りやすい現代的な内観に改修する見通しである。また、売却益で、スクールバスを先行的に再開した。マドリッド市内からのルート1路線のみだが、通学しやすい環境となったため、入学児童が増加した要因のひとつと考えられる。

(2) 管理運営上の課題

スクールバス運行再開で通学しやすい環境が整ったこともあり、小学部児童の入学が増えた。来年度以降に入学を検討している保護者からも問い合わせもあり、マドリッド駐在の日本人家庭のみならず、永住型の日本人家庭にも、日本の教育を望む家庭があることがわかってきた。特に、本校の特徴でもある少人数での丁寧な個別支援と生活指導に期待する傾向がみられる。

現在派遣教員は7名。そのうち、校長1名、教頭1名、教諭が5名で構成され、5名の教諭が学級を担任している。小学部は小学1・2年生、小学3・4年生、小学5・6年生の3学級、中学部は1・2年生と3年生の2学級を設置している。小学部の3学級は国語科、社会科、理科の1部または全部を複式授業で行っているが、日本語の支援が必要な中で、低学年の児童数が増加し、複式授業を行うことがはかばかなり困難な状況である。各学年の児童生徒数のアンバランスさもあり、今年度は小学1年と小学4年を単式学級として4学級、中学部を1学級とした。単式の学級ができた分、一人ひとりの派遣教員の授業配当時間数が増え、各派遣教員の負担が大きくなってしまっているのが現状である。

(3) 短期入学及び夏季体験入学の実施

日本の教育を提供する機会の確保、学校運営資金の確保を目的に、マドリッド日本人学校では、短期入学制度と夏季体験入学制度を導入している。短期入学は、1学期は2ヶ月以上、2学期以降は1～4か月間の期間で認めてお

り、正規生と同じ扱いで学校生活を送るものである。現地校の許可を得て、一時的に現地校を休校して入学する場合が多く、現地校の出席日数に数えられることもある。また、夏季体験入学は、現地校が夏休みに入った6月の終わりから3週間実施している。現地校や補習授業校に通う児童生徒を迎え入れて、日本の教育を体験する機会を設定している。この2つの制度は少人数のマドリッド日本人学校において、児童生徒が増えることによる運営資金の確保だけにとどまらず、在籍している児童生徒にとっても、多くの人数の中でコミュニケーションスキルを高めることや、話し合いによって学びを深める授業ができるというメリットにつながっている。この2つの制度は、マドリッド日本人学校における大きな運営上の特徴と言える。

3. マドリッド日本人学校での実践

(1) 複式授業の授業研究・交流

小学部では算数でも複式での授業になることがあるため、より効果的で効率的な授業を目指し、授業研究・交流を行っている。また、職員研修のテーマを「複式での授業」に設定し、組織的に研修や研究を行っている。

(2) 長さを測ろう (中3 数学: 平方根)

数の拡張の授業を扱った。定規を使わずに線分の長さを計測するのに、「マス目を数えること」「計算によって求めること」とステップを踏んで学習を進めるが、2乗の数の面積を持たない正方形の一边を求めるにはどうしたらいいかを解決していく授業とした。生徒には既習の数では表すことができない数があり、葛藤を起こさせ、平方根という新しい数の登場にインパクトを残したかった。「数の拡張」の場面を小学部の先生にも参観していただき、非常に感触のいい授業であった。生徒の心の中にはモヤモヤしたものが残ったが、生徒は一生懸命課題に向かい、粘りつよく取り組んだ。ディスプレイ、スマートフォンなど ICT 機器も活用し、簡易的な電子黒板のように授業で使うことができたことも、授業改善に一石を投じることができて良かったと思う。

(3) キャリア教育の一環としての職場体験学習

中学部のキャリア学習の一環として、実際に職場を訪問する学習を実施してきた。2年前から、より体験的、経験的な職場体験学習にするため、保護者やマドリッド日本人会の協力を得て、実際に勤労体験をさせてもらえるレストランや商店に生徒を受け入れてもらった。事前の打ち合わせや準備は大変だったが、人生の先輩から聞く経験談や進路のアドバイスを真摯に聞き、実際に働くことでその意義や意味を身をもって実感していた。事業者の皆様には生徒のためにたくさん体験活動を準備していただいております、生徒は体験後、かなり心身ともに疲労を感じていた様子だった。

(4) 社会見学

全校生徒でマドリッドの社会を知るいい機会である。小学部社会科との関連性も考えて、ゴミ処理場やESA (欧州宇宙機構)などを訪問した。昨年度は小学部と中学部を分けて実施することができ、発達段階にあった事前学習活動、社会体験を得ることができた。公共の交通機関を使い、INEF (スペイン国立体育大学) とティッセン=ボルネミッサ美術館を訪問した。高度で歴史ある教育施設と文化的価値が高い美術館を訪問することができ、中学生にとっては充実した経験となった。



事後研究の様子



ICT機器を使った数学の授業



レストランでの体験学習

(5) 部活動

毎週金曜日の放課後 1 時間を使って部活動の時間が設定されており、「スポーツ部」として活動した。中学部生徒の人数もある程度在籍していたため、小学部、中学部に分けて実施し、発達段階に応じたスポーツや運動で汗を流した。中学部は、派遣教員が私も含めてバスケットボール指導経験者だったので、より専門性のあるバスケットボール指導や人間育成を心がけて進めてきた。対外試合や練習試合を組めるわけではなかったが、年度末に「マドリッドカップ」を創設し、派遣教員に協力してもらって、大会形式で教員チームと対戦した。年間を通しての取り組みの成果を発揮できる場面を作ることができた。

(6) 日本人会行事への参加

日本人学校の校長が日本人会の運動部長を兼ねているため、派遣教員は運動部員として日本人会の行事にも積極的に参加し、協力している。ソフトボール大会、バドミントン大会、ボウリング大会などの行事に参加することで、マドリッドでのネットワーク作りもでき、マドリッド駐在の企業の方や大使館の方々との交流を深めることができた。また、盆踊り大会では櫓の上で太鼓を叩かせてもらったり、もちつき大会ではもちつきのデモンストレーションを経験させていただいたり、日本にいるときよりも日本らしい貴重な経験をさせていただいた。日本人会会員のみならず、スペイン人の親子連れも多く参加しており、日本文化に興味を持つスペイン人が年々多くなっていると感じる。そのような行事に携わる派遣教員として、果たす役割は大きいと感じた。



日本人会主催の盆踊り大会

4. おわりに

派遣期間 3 年の間に中学部長、他都府県進学の進路指導、スペイン日本商工会議所とのつながりなど、貴重な経験をさせていただいた。特に 3 年目は教頭として一般教員とは別の視点に立ち、校長の学校経営方針に沿って「職員室の担任」として働きやすい環境作りや学校運営にも関わらせていただいた。児童生徒との出会い、苦労をともにした同僚、ご指導ご鞭撻いただいた学校運営委員やスペイン日本商工会議所、マドリッド日本人会の皆様のおかげで、一教員として豊かな時間を過ごすことができた。自分自身の派遣のねらいでもあったが、異なる視点に立つことの重要性を学び、狭かった視野を広げる 3 年間とすることができた。

冒頭にも述べたが、派遣に関わって、任期中や帰国に関わってお力添えをいただいた皆様に感謝申し上げたい。